

# 「レジリエント建築シンポジウム」発表講演原稿の募集

<主催>

日本建築学会 企画運営委員会 レジリエント建築タスクフォース

<シンポジウム開催日/会場>

2020年11月26日(木) / 建築会館ホール (東京都港区芝5-26-20)

**応募締切： 2020年8月31日(月) 17時 (厳守)**

標記シンポジウムの開催にあたり、[口頭発表]と[ポスター発表]の2種類の形式による講演原稿を以下の要領で募集しますので、ふるってご応募ください。なお、若手優秀発表賞の表彰を予定しています。

2011年の東北地方太平洋沖地震の発生以降、建物の総合的なレジリエンス評価や企業活動におけるBCP (Business Continuity Plan) レベル評価に関する関心が高まりつつある。また、我が国では近年、地震・豪雨・台風等の自然災害による被害が大きな問題となっている。そこでは、これまでの常識ではカバーできないような事象が多数観測されている。そのような予測が困難な時代においても有効となる「レジリエント建築」への取り組みが求められている。

2019年9月の日本建築学会大会(北陸)では、パネルディスカッション「事業継続計画策定のための地震災害等に対する建物の機能維持・回復性能評価指標の提案に向けて」が開催され、レジリエント建築に関する現況報告と議論が行われた。本シンポジウムでは、上記のような自然災害に対する抵抗性能に加えて、災害発生後の高い回復性能を有するレジリエント建築およびそれに関する研究について、多様な分野から活発な議論を行いたい。

## ●応募要領

### 1. 応募資格

1) 講演発表者(筆頭著者)および共同発表者(連名者)は、正会員(個人)・準会員・名誉会員に限る。

※未入会者、2020年度会費未納者、ならびにその該当者が含まれるグループの応募は受け付けない。応募時までに入会および完納すること。

2) 同一の講演発表者(筆頭著者)による応募は1件までとする。共同発表者(連名者)はこの限りではない。

### 2. 期待される応募内容

1) レジリエント建築の概念は、研究者・設計者により異なることも予想されるため、レジリエント建築が適切に定義され、想定する災害時の機能維持と被害の状況およびその後の回復の程度と時間等が具体的に示されていることが望ましい。また、レジリエントでない場合との比較がわかりやすく示されることが望ましい。以下に、参考となるレジリエント建築の事例およびキーワードを紹介する。

- ・災害時に使用する建築物
- ・水がくると浮き上がる建築(移動する建築)
- ・所蔵庫や設備の高層部への移動
- ・トレーラーハウス
- ・敷地内の遊水池
- ・設備系統のゾーニング
- ・復旧性能に優れた建築計画に基づく建築物
- ・自家発電装置の設置建物
- ・免振機構などを有する抵抗性能に優れた建築物
- ・多重化された設備システム(機器・配線)
- ・街区内におけるエネルギー融通(熱・電力等)
- ・電力不要な自然換気を考慮した外装(ダブルスキン等)
- ・地震後の損傷調査が容易な内装・仕上げ

2) 原則として未発表のものに限るが、大会学術講演会や支部研究発表会等で発表したものを発展させたものや、何編かまとめて一連の研究としたものでまとまりのあるものは可とする。

### 3. 提出物

以下の1) 2)を提出すること。

1) 応募申込書: 所定の書式(URL)に従って、以下①～④の事項を明記のうえ、Wordファイルで提出すること。

[http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2020/re\\_appli.docx](http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2020/re_appli.docx)

①希望の発表形式( **A** [口頭発表] または **B** [ポスター発表] を選択)

②表題

③講演発表者(筆頭著者)の氏名・会員番号・所属・生年月日・電話番号・E-mailアドレス

④共同発表者(連名者)の氏名・会員番号・所属

2) 希望の発表形式の書類を、Adobe Readerで表示および印刷可能なPDFファイルで作成のうえ提出すること。

#### **A** [口頭発表]

①A4判4～8ページの講演原稿: 書式は本会学術推進委員会シンポジウム等「資料作成用フォーマット(PDF)」および「資料作成用テンプレート(Word)」に従う。ただし、日本語要約は不要である。

<http://news-sv.aij.or.jp/academic/shosiki/index.htm>

#### **B** [ポスター発表]

①A4判2ページの梗概原稿: 書式は上記 **A** [口頭発表]

①と同じ。

②A3判ポスター1枚(縦使い): 表題、発表者の氏名・所属をポスターの先頭に記載すること。その他の書式は自由。なお、シンポジウム当日に、このA3判ポスターを拡大印刷した発表用A1判ポスターを持参する

こと。

#### 4. 提出物作成上の注意

- 1) PDF作成時にフォントの埋込み処理を行うこと。
- 2) 色使い：原稿の本文・キャプションの文字を黒色とするほかは、色使いの制限は特にない。
- 3) 写真や画像などの解像度：写真や画像を含む場合、PDF化することにより、出力品質が劣化することがある。ファイルサイズ制限内で、PDF化する際のジョブオプションの値を高くして作成すること。
- 4) 印刷の確認：作成したPDFファイルは一度プリンターで印刷し、紙面上で、著者の意図どおり印刷できていることを必ず確認すること。

#### 5. 提出先・提出方法・応募期間

##### (1) 提出先

上記「3. 提出物」を添付ファイルとし、レジリエント建築シンポジウム係 ([resilience@aij.or.jp](mailto:resilience@aij.or.jp)) に電子メールで提出する。

##### (2) 提出方法

- 1) 応募1件につき1通のメールとする。
- 2) 件名は、「レジリエント建築シンポジウム応募 (A またはB)」とする。

※希望の発表形式 (A [口頭発表] または B [ポスター発表]) を選択

- 3) ファイル名は、講演発表者 (筆頭著者) の氏名 (ローマ字) と以下該当の数字をアンダーバーで結んで表記すること。

例：応募申込書                    kenchiku\_taro\_1.doc  
原稿 (講演・概要)                kenchiku\_taro\_2.pdf  
ポスター                            kenchiku\_taro\_3.pdf

- 4) ファイルサイズは、1通のメールで5MB以下とする。5MBを超える応募は受領しない。また応募申込書・原稿・ポスターのファイルは各一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないこと。

##### (3) 応募期間

**2020年8月15日(土)～8月31日(月) 17時 [厳守]**

※締切後の原稿の訂正は一切認めない。

#### 6. 発表要領

##### A [口頭発表]

- ①PCプロジェクターを使用することができる。

- ②発表時間は、質疑応答を含め一題あたり10～15分の予定である。

##### B [ポスター発表]

- ①会場の定められた位置に、当日持参した発表用A1判ポスターを各自で展示する。
- ②壇上で、数分の発表時間を設ける予定である。
- ③一定時間、自身のポスターの前に待機して質疑応答を行う。

#### 7. 著作権等

- 1) 著作権は著者に属し、本会は編集出版権をもつ。
- 2) 他の著作物等を引用・転載する場合は、著作権上の問題が生じないように注意し、必要な場合は著者の責任で処理すること。
- 3) 当シンポジウムに発表された原稿・ポスターについて、本会および本会が許諾したウェブサイトからの全ページ公開を認めること。

#### 8. 注意事項など

- 1) 原則として講演発表者 (筆頭著者) は、シンポジウムに出席して発表を行うこと。その際、シンポジウム参加費を支払う必要がある。
- 2) A [口頭発表] が投稿多数の場合は、B [ポスター発表] に変更していただく場合がある。
- 3) 当タスクフォースが不適当と判断したものは採用しない。
  - ①本文または図表が著しく不十分または不完全なもの (図表中の文字も十分判読できるよう作成すること)。
  - ②指定の書式による文字数の基準を大きく逸脱したもの。レイアウトが著しく逸脱したもの。またはPDF変換時に崩れたもの。
  - ③内容が商業主義に偏したり、宣伝的色彩の濃いもの (商品名の使用には注意すること)。
  - ④他者を誹謗中傷する内容を含むもの。

#### 9. その他

若手優秀発表賞の実施を予定している。対象者は、講演発表者 (筆頭著者) かつシンポジウム当日に A [口頭発表] を行った30歳未満 (発表時点) の若手会員に限る。詳細は後日、本会Webサイトに掲載する。

#### 10. 問合せ先

レジリエント建築シンポジウム係

E-mail: [resilience@aij.or.jp](mailto:resilience@aij.or.jp)